

第3学年道徳学習指導案

日 時 平成21年10月9日(金) 5校時
児 童 3年 男子7名 女子3名 計10名
指導者 首 藤 裕 子

- 1 主題名 みんな友だち 【2-(3) 友情・信頼、助け合い】
- 2 資料名 明るくなった友だち (出典 みんなのどうとく 3年 学研)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章、道徳の第3学年及び第4学年の内容の2「主として他の人とのかわりに関すること」の(3)に、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」とある。

この段階においては、気の合う友達同士で仲間をつくって、自分たちの世界を確保し楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害に基づく衝突が強くなることも見られる。このような特性から、この段階においては、健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切であり、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことを中心として指導していきたい。

(2) 児童について

本学級は、明るく元気な児童が多く、行事や学習、普段の生活においてどの子とも仲良く活動することができる。休み時間の学級レクも自分たちでルールを決め、仲良く遊ぶことができる。しかし、自己主張の強い男子が時々、遊び等で口論になることがある。それぞれの言い分を冷静に聞く場面を設けると、誤解であったり、歩み寄る要素を見つけたりすることができ、仲直りする素直さは持っている。女子は3名と少人数であるので、学級での活動では男女関係なく行動している。しかし休み時間になると、気の合う女子2名と一緒に遊んでいることが多い。

授業では、ほとんどの児童が、自分が考えたことや思ったことを自分の言葉で発表しようとしている。友達の意見に関わって発表することについては、自分の考えと似ていることや違うということの意思表示はできるが、それについての考えを発表できる児童は数名である。

(3) 資料について

本資料は、主人公の千緒が、友だちがいなかったために学校へ来づらくなった同じクラスの子に対して、周囲の目を気にせず家まで迎えに行き、友だちを助ける場面を通して、誰とでも仲よくし、助け合う心を育てるように構成されたものである。

このようなことは、日常生活でよく起こりうる話であり、児童の生活経験を呼び起こしやすい資料である。友だちが明るく元気になるように助けてあげようとした主人公の気持ちを共感的にとらえさせ、助け合うことの大切さを考えさせたい。

(4) 他の教育活動との関連

友だちとの関わりは、毎日のことである。気の合う友だちだけでなく、誰とでも仲良くするために教科や特別活動の中でも、意図的にグループ編成し、活動させていく。また、帰りの会の「今日のたから物」では、これからも友だちに助けられたことや一緒に活動して楽しかったことなどを積極的に発表させていく。また、心のノート「友だちのよいところを見つけよう」に取り組み、友達関係を広げ深めていく。

4 本時の指導

(1) 目標

だれとでも仲良くし、助け合おうとする心を育てる。

(2) 本時の指導の構想について

導入段階では、帰りの会での「今日のたから物」や「みなさんへおねがい」のコーナーを話題にし、友だちのよさや分かっているけど仲良くできない時もあることを意識させながら資料へとつなげていく。

展開段階では、お母さんと言い合いになった場面までと、次の日決心をして迎えにいった場面と分けて資料を提示し、前半部分に葛藤場面を位置づけての交流する場を設けた。資料の前半提示では、友だちをかわいそうに思うが、迎えに行ったり遊んだりすると自分も仲間はずれになるのではと不安に思う千緒の心に共感させる。そのあとお母さんと言い合いになった場面でのお母さんの最後の言葉を聞いた千緒の気持ちをワークシートに書かせじっくり考えさせる。助けるか自分を守るか二つの気持ちがあり、どちらを選ぶか迷う気持ちがあることを理解させ、意見交流を図りたい。資料の後半提示では、みんなといっしょに遊ぶ友だちの様子を考えさせることで、心の弱さを乗り越え、自分から思い切って行動して得ることのできたよさやすばらしさを実感させたい。

終末段階では、2年生の時転校していった友だちのビデオレターを流す。転校先での友だちとの関わりや吉浜に遊びにきた時友だちがいっしょに遊んでくれたという内容から、友だちのよさを実感させ、本時の価値をさらに深く心に受け入れさせたい。

(3) 展開

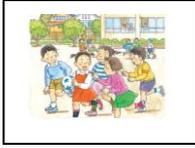
段階	学習活動と主な発問（主発問◎）	予想される反応	評価(□)、留意・支援(☆)
導入 5分	1 「今日のたから物」や「みなさんへおねがい」コーナーの話題から友だちのことを考える。 ○9月に「今日の宝物」「みなさんへお願い」に出た内容です。これを見て、みんなはどう思いましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとのことが多い。 ・けんかした人がいて、悪かったと思う。 ・ちり紙をくれたり、落とし物を捨ててくれたり親切な人がいる。 	☆9月に話題になった内容を提示し、友だちとの関わり方を振り返らせ、資料へとつなげていく。 【生活を見つめての意見交流】 □9月の話題から、友だちとの関わりを振り返って発表していたか。
展開	2 資料「明るくなった友だち」を読み、千緒の気持ちを中心に話し合う。 ○先生の話聞いて、「わたし」はどんなことを思ったのでしょうか。 ○わたしはどんな気持ちからお母さんにいやだと言ったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしたんだろう。 ・なんで来ないんだろう。 ・来づらいんだ。 ・かわいそうだな。 <ul style="list-style-type: none"> ・迎えに行ったら私も仲間はずれになってしまう。 	☆資料を前・後半に分けて提示することで千緒の気持ちのゆれを感じ取らせる。 ☆休んでいる友だちは、特別に仲のよい友だちではないことを押さえておく。 ☆かわいそうに思うが迎えに行ったり遊んだりすると自分も仲間はずれになるのではと不安に思う心に共感させる。

33分	<p>◎お母さんの最後の言葉が心にささった「わたし」はどんなことを考えたでしょう。</p> <p>・迎えに行って、わたしはどう思ったでしょう。</p> <p>○すっかりみんなと仲良しになった友だちを見て、「わたし」はどんなことを思ったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなからいじめられてしまう。 ・どうしてわたしが行くの。 ・かわいそうだけど・・・。 ・お母さんの言うこともわかるけれど、迎えに行くのは嫌だな。 ・みんなにいろいろ言われるのが嫌だ。 ・行って、嫌がられたら・・・。 ・お母さんの言うとおりに。 ・一人で寂しいだろうな。 ・わたしだったら迎えに来てほしい。勇気を出して迎えに行こう。 ・来なければよかった。 ・つらい。 ・いやだけど、来ることにしたのだから、がまんしよう。 ・あの時思い切って迎えに行ってよかった。 ・気持ちを考えてあげてよかった。 ・みんなも仲間になってあげたかったんだ。 ・仲良くなってよかった。 	<p>☆ワークシートに書かせ、じっくり考えさせる。</p> <p>☆「わたし」の気持ちの葛藤をそれぞれの立場から自分の言葉で発表させ、意見交流を図る。 【葛藤場面を位置づけ、自分に置きかえての意見交流】</p> <p><input type="checkbox"/>自分の考えを持って進んで友達と意見交流ができたか。</p> <p>☆資料の後半部分を提示し、迎えに行く決心をし、行動しても、まだゆれている千緒の気持ちを感じ取らせる。</p> <p>☆「わたし」が行動に移したことが、級友の心をも変え、その子を明るくしたことをとらえさせる。</p> <p>☆自分から思い切って行動して得ることができたよさやすばらしさを実感させ、みんなも「守ってあげたい気持ち」を持っていたことにもふれる。</p>
終末 7分	<p>3 これからの自分の生活について考える。</p> <p>○転校していった友だちのビデオレターを見て、どう思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道ではじめ大変だったんだな。吉浜に来たら、また遊びたいです。 ・ぼくも2年に転校してきたけど、すぐに友だちができました。 	<p>☆転校していった友だちのビデオレターを見ることで、これからも友だちと仲良くしようとする気持ちを持たせる。</p>

(4) 評価

- ・誰とでも仲良くし、助け合おうとする気持ちをもつことができたか。

5 板書計画



- ・明るくなった友だち
- ・みんなもなかまになつてあげたかったんだ。
- ・思い切つて行つてよかった。
- ・気持ちを考えてあげてよかった。

明るくなった友だち

・お母さんが言うのもわかるけれど、いやだ。
・行って、いやがられたら、ゆう気を出してむかえにいこう。



- ・みんなからなかまはずれにされる。
- ・どうしてわたしが行くの。
- ・かわいそうだけど・・・

その子の立場になつていらん



むかえに行つてあげたら

- ・先生の話を聞いて
- ・どうしたんだろう。
- ・なんでこないんだろう。
- ・来づらなんだ。
- ・かわいそうだな。

今日のたから物

友だち

みなさんへおねがい

6 資料分析

資料名 明るくなった友だち (出典 みんなのどうとく 3年 学研)

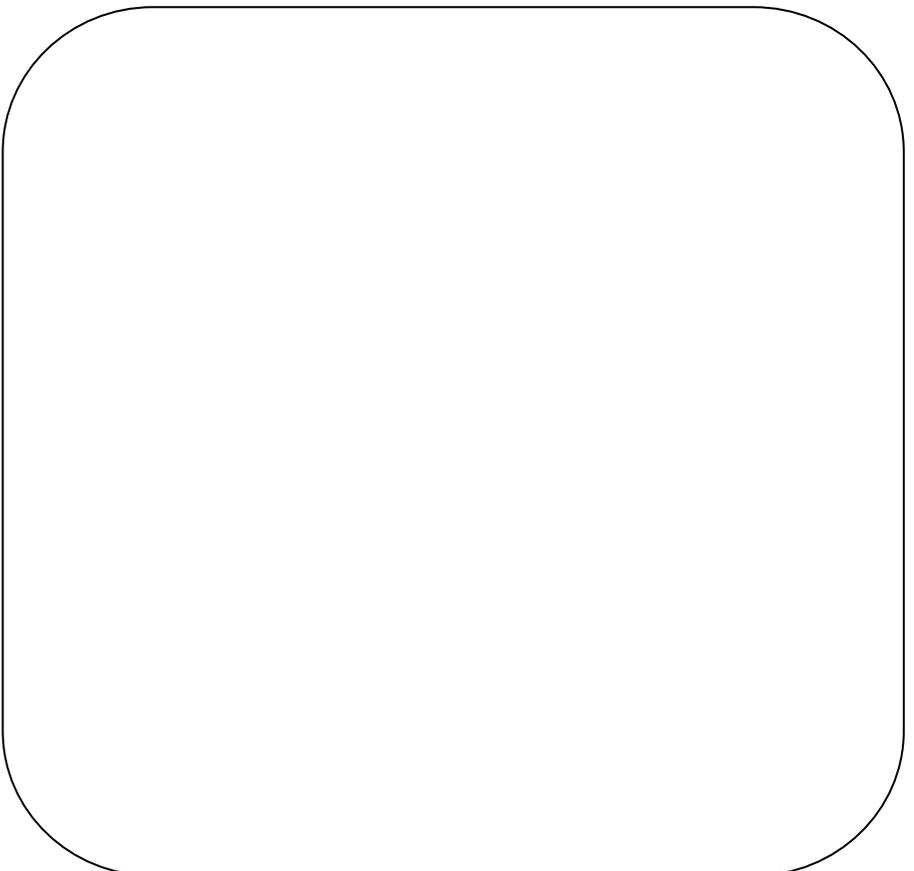
ねらい 誰とでも仲良くし、助け合おうとする心を育てる。

場 面	クラスの子がなん日も学校を休んだ。	その夜、お母さんに休んでいることを話したら、「迎えに言ってあげたら。」と言われ、言い合いになった。	お母さんの最後の言葉が心にささった。	私は決心すると、次の日迎えに行った。学校に行くと、みんなは毎日、毎日なかまになってくれた。
主人公の意識構造	同情 ○何日も休んでいたから、学校に来づらいのかな。かわいそうに。	とまどい・不安 ○私が仲間はずれになってしまふのはいやだ。親しくないのに、なぜ迎えにいかなければならない。	葛藤 ○お母さんの言うこともわかるけど、でも不安。どうしたらいいかわからない。	相手を考える大切さ ○勇気を出して、迎えに行ってきた。みんなもわかってくれた。
発問	○先生の話聞いて、「わたし」はどんなことを思ったのでしょうか。	○わたしはどんな気持ちからお母さんにいやだと言ったのでしょうか。	◎お母さんの最後の言葉が心にささった「わたし」はどんなことを考えたでしょう。	○すっかりみんなと仲良しになった友だちを見て、「わたし」はどんなことを思ったでしょう。
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしたんだろう。 ・なんで来ないんだろう。 ・きづらんだ。 ・かわいそうだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・迎えに行ったら私も仲間はずれになってしまう。 ・みんなからいじめられてしまう。 ・どうしてわたしが行くの。 ・かわいそうだけど……。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの言うこともわかるけれど、迎えに行くのは嫌だな。 ・みんなにいろいろ言われるのが嫌だ。 ・行って、嫌がられたら……。 ・お母さんの言うとおりで。 ・わたしだったら迎えに来てほしい。勇気を出して迎えに行こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あの時思い切って迎えに行ってきた。 ・気持ちを考えてあげてよかった。 ・みんなも仲間になってあげたかったんだ。 ・仲良くなってよかった。

友だち

名前

お母さんの最後の言葉が心にささった千緒はどんなことを考えたいでしょう。



ふりかえってみよう (◎) ○ △ ()

自分のことばで発表することができたか。

友だちの意見を同じこところ、ちがうところを見つけながら聞くことができたか。